



1月給食だより

令和6年度1月
大田区立馬込中学校

新しい年を迎えました。お正月に始まり、七草、鏡開き、小正月など、1年間を健康に暮らせるように願いをこめた行事がたくさん行われます。また、大田区では学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に1月24日から2月6日までの2週間を「大田区学校給食週間」とし、取組を推進してまいります。

戦後、国内外の多くの善意や期待を寄せられて再開された学校給食週間の意義を考え、その一層の充実を期する2週間となります。また、この期間を通し、あらためて食べ物の大切さ、作る人の思いを知り、給食に対して感謝の気持ちを持ちましょう。



学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年	戦後(昭和20~30年代)	現在
山形県鶴岡町(現：鶴岡市)私立忠愛小学校で提供されたとされる給食。	支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。	地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。

「あげパンコンテスト」結果発表

馬込中学校の食べたいあげパンの味

1位 コアあげパン

大田区学校給食週間(1月24日から2月6日)に給食で提供します。お楽しみに。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

阪神・淡路大震災から30年

災害時の『食』を備えましょう

1995(平成7)年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性やボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と決めました*。

阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018(平成30)年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

1月17日

「おむすびの日」



災害時の食の備え



★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。



そのまま食べられる

非常食



アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える

日常食品



お米、乾麺、乾物、日持ちのする野菜・果物、調味料など

外出時の

持ち歩き用品



飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくとう安心です。

1人1日3リットル



カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。